

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370107165		
法人名	テルウェル西日本株式会社		
事業所名	NTTグループ ケアポート岡山(グループホーム)		
所在地	岡山県岡山市中区湊264-8		
自己評価作成日	平成27年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2015_023_kani=true&JivovsvoCd=3370106217-00&PrefCd=33&VersionCd=023
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-612-2		
訪問調査日	平成27年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的なアットホームな雰囲気の中で、一人一人に心を向け、ご利用者の「今」を大切に、毎日穏やかに笑顔で過ごせて、「この施設を選んでよかった」と、利用者ご家族に安心して頂けるようスタッフ一同心を合わせて支援している。
 ・家庭では味わえないゲーム、レク、催し物への参加をして頂き、ボランティアの方の協力も得ながら、外出する楽しみも提供している。
 ・職員の研修については、率先して受講させ、充実した育成計画の中で職員のスキルアップを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「親を入れたい施設」を目指している通り、地域からの評判は高い。調査時はフラワー・アレンジメントのボランティアがいたが、「ここは素晴らしい事業所だ」と話してくれた。地域との交流の機会が多く、ボランティアによる催し物や、保育園との交流会、中学生の職場体験など、利用者と触れ合い、それにより、互いが笑顔になっている。毎年開催している「ケアポート祭り」には、地域の人々が大勢来られ、バザーや催しに参加された。職員は定着率が高く、長年勤めている人も多い。管理者や上長との信頼関係が築かれ、職員どうしの人間関係がよい。また、適正な就業時間、福利厚生の実施等で、働きやすい職場となっている。職員研修は業務時間内に実施し、技術の向上をしやすい、質の高いケアにつなげている。最近積極的に看取り介護に取り組み、それが職員の成長を大いに促した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念に基づいた仕事をしており、絶えずご利用者を中心にご家族とスタッフが同じ気持ちで支えあっている。 ・月毎の目標を掲げ、毎朝の申し送り時に唱和し、スタッフ全員で共有している。	「利用者、家族、職員が同じ目線を原点とする」という理念を家族にも説明し、職員は毎朝唱和し、共有している。管理者は、職員の動きを理念と照らし合わせて、足りてないと感じることや、意識してほしいことを、月次目標として定めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ご近所、公園への散歩時に、地域の方からの声掛けや、ご利用者も子供たちや散歩中のペットとの出会いを楽しみにしている。 ・毎年、ケアポート祭りには地域の方々が大勢こられる。 ・近隣の保育園から園児が年2回、当施設を訪問し交流している。	地域のボランティアや中学生の職場体験を受け入れている。調査時もボランティアが来訪し、利用者とはフラワーアレンジメントをしていた。保育園児との交流会は、利用者が園児へ手作りのマスク入れをプレゼントしたり、園児が利用者へ肩たたき、お遊戯をしたりしている。「ケアポート祭り」では家族の協力も得てバザーを開催し、みんなに楽しんでもらう。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・電話での問い合わせに対応したり、GH運営推進会議等で、認知症の方の支援等について話し理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・岡山市、町内会長、老人会会長、交通安全母の会会長、民生委員、ご家族等各代表の方大勢に参加いただき年6回実施している。 ・災害時の対応等町内の方とも情報の共有化を図っている。	運営推進会議では事業所の状況や研修等を報告し、参加者からは意見や地域の情報提供がある。複数の民生委員が出席し、会議をきっかけに、利用者の外出を協力したり、町内会長や役員が来訪して、かき氷をふるまっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議に毎回出席していただき、介護保険の新たな動向について教えていただいている。 ・今後は、施設の行事等の見学をお願いする等連携を深めていきたい。	市の担当者の都合に合わせて、運営推進会議の日時を調整し、参加してもらえるようにしている。介護保険の新たな動向の他、食中毒やインフルエンザ等注意報の状況を会議で話してもらう。また、事業所の行事を案内している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・マニュアルに従い、ミーティングで話し合い情報を共有化している。身体の危険がある等どうしても必要な時は、家族に説明し同意を得ている。 ・玄関の施錠は、外部からの侵入防止のため行っている。	職員は皆、穏やかに対応し、自然に「～ませんか？」と利用者に尋ね、身体拘束はおろか、言葉による拘束もまったく見受けられない。年に1回は県主催の研修に参加し、参加した職員が職員会議の中で他の職員に内容を伝え、周知・共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・ご利用者が安心して穏やかに暮らせるよう、「ここにきてよかった」と思ってもらえるよう、常に配慮することをミーティングで話し合っている。 ・言葉使い、態度については、日々話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見人制度については、研修を受講しており、研修資料をファイルしてスタッフがいつでも見ることができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・ご本人、ご家族同席の下に十分説明しており、ご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関に「意見箱」を設置しているほか、ご家族の面会時には最近のご様子をお知らせしたり、月1回の手紙でも連絡している。 ・家族会を開催し、意見交換を行っている。 ・お誕生日会等にもご家族に参加して頂き、会話ができる機会を設けている。	意見箱に意見が入ったことはないが、家族の来訪時等に話しかけ、意見を聞くようにしている。家族会は敬老会後に年1回開き、ほぼ全ての利用者の家族の参加がある。職員の名前がわかるように、名前を刺繍したワッペンをエプロンに付けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・施設長・事務長同席のうえ、毎月2ユニット合同のスタッフミーティングを行っており、意見交換を行っている。 ・日々の申し送り時、気軽に発言できる雰囲気を作っている ・交流会も行っており、コミュニケーションを図っている。	管理者に対する職員の信頼は厚い。職員が、日々のケアで疑問に思ったことや、研修で得た知識を意見としてあげると、管理者がすぐに対応してくれる。働きやすい職場で、長く勤めている職員が多い。職員会議の中でも、運営に関する話を議題にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年間事業計画目標を掲げており、達成すれば表彰される等、やりがいの持てる仕事ができるよう配慮している。 ・スタッフの人員も多く、気兼ねなく年次有給休暇を取ることができ、スキルアップや研修における費用面で配慮している。 ・施設長が、年2回個人面談を行い、意見交換を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・様々な研修の機会を捉え、できるだけ多くのスタッフが受講できるよう配慮している。 ・研修の成果は、報告書を作成し、ミーティング等で報告し、全員が実践できるよう共有化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他のグループホームの管理者やスタッフとのネットワークを持っている。 ・ケアポート祭り等で他県のケアポート施設へ参加し、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご利用者の気持ちに添えるよう、話し合いの時間をゆっくり持ったり、ご家族からも情報を得て、安心して生活をスタートできるようにしている。 ・ご利用者の表情や発言から、ご利用者の気持ちをしっかり受け止めて接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の訪問も多く、いつでもお話を聞く体制ができている。 ・ご家族の協力を得ながら、最後まで過ごしていただけるよう良好な関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・話し合いの中から、また、アセスメントの中から今、ご本人に必要な事を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・台所仕事、洗濯干し、洗濯物たたみ等ご利用者の能力にあわせてお手伝いをさせていただく等、共同生活を送っている。また、「ありがとう」「助かります」と言える場面を度々作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・月1回ご家族に手紙で現状を報告したり、季節の変わり目には衣替えをお願いしている。 ・お誕生日会、敬老会にはご家族を招待しているほか、いつでも訪問しやすい雰囲気作りに配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人、親戚、子供さん、お孫さん、ひ孫さん等よく面会がある。 ・敬老会、お誕生日会にも来所していただき、ご利用者と一緒に楽しんでいる。 ・ご家族との外出、外食等楽しんでいる人もある。	フリーダイヤルなので、家族からの電話も多い。誕生日会は、家族等の都合に合わせて開催日を決めるので、家族等の参加率が高い。お盆にお墓参りに行く利用者にタクシーを手配する等、できることを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・皆でそろっての体操やレクリエーションで楽しんでもっていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・病院や他施設に移られても面会に行くなど、関係を大切にしています。 ・退所後、お亡くなりになられた時も、連絡をいただき、お別れをさせていただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・集団の中でも、できるだけその人らしい生活を送っていただくために、得意なこと、続けたいことを支援している。 ・コミュニケーションをしっかりと図り、表情を見ながら対応している。	利用者の表情を見ながら対応し、また、フラワーアレンジメントやちぎり絵などのレクリエーションを通じて、思いの把握に努め、それを職員間で共有している。利用者の真剣な表情や楽しそうな様子が、至る所で見られた。	定期的に利用者の生活歴などの情報を見直したり、まとめ直したりして、その人が大切にしていることを職員がきちんと把握し、共有することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ケアマネから今までの暮らしぶり等詳しく聞いた後「アセスメント表」を作成し、それを基に色々検討を行ったうえで、その人らしい暮らしができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご利用者の心身の状態は、朝の申し送りです スタッフ全員が毎日正確に把握している。また、介護記録、グループホーム日誌にももれなく記入している ので、前日週休で次の日に出勤しても把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・それぞれの担当者とケアマネージャーが協力して、ご本人、ご家族の要望・ご意見を聞き取った 中でケアプラン提案表により、スタッフの意見を聞きながら、ご利用者が生き生きと生活できるように介護計画を作成し、モニタリングも日々行っている。	利用者ごとに担当職員を決めることで、しっかり様子が把握できている。例えば、状態悪化のため、いつもパジャマのままの人に対し、本人と家族の両者から話を聞き、本人にとって暮らしやすいのはパジャマのままと結論づけた。介護記録は具体的で、言葉も丁寧で、わかりやすい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・「報連相」がよりうまくいくように、グループホーム日誌、介護記録に必要な情報を記入し、情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご利用者の状況は日々変化しているので、その時々に応じ、「今ご利用者に何が一番大切なのか」を考えながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近隣の公園への散歩、保育園の園児の訪問や、中学生の職場体験学習を受け入れている。 ・地域と良好な関係を保ちながら、その資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・毎月馴染みのかかりつけ医(主治医)の往診があり、一人ひとりの状態をDrに伝えてい。 また、変調があるときはすぐに連絡し、的確な指示を仰いでいる。	入居前のかかりつけ医を継続するかどうかは、本人や家族の希望により決めている。受診時は職員が送迎し、可能な限り付き添い、しっかりとかかりつけ医との情報交換ができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・24時間医療連携により、異常時はすぐに連絡、指示をうけている。 ・週1回バイタルチェック、健康管理をしてもらっている。また、排便、洗腸、爪切等お願いしている。 ・心配な点については、相談したりアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院先に度々出向き、先生や看護師に状態を尋ねたり、退院前には先生、看護師、OT、PT、栄養士とのカンファレンスを行い、退院後、安心してホームで生活を送れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期対応は書面化し、説明を行い、同意のサインをもらっている。 ・重度化し医療の必要がない場合は、家族の協力を得ることができれば、医師、看護師とも連携を図り、看取りを行う。(今まで3名のご利用者を看取った)	この2年間で3件の看取りがあった。同じ建物内の通所介護の看護師や家族との協力体制を築き、また、訪問看護ステーションの職員に看取りの勉強会を開いてもらったり、利用者の状態に合わせて職員の勤務時間を変更する等、より良い看取りにつながるよう努めている。葬儀も参列し、家族の心のケアも合わせて行っている。看取りが職員の成長にもつながった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急連絡体制図を各ユニットに掲示している。 ・AEDを設置し、緊急時に備えている。 ・緊急時マニュアルを作成し、スタッフの勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回訓練を実施している。 ・運営推進会議において、地域の方へ協力をお願いしている。 ・消防署員による施設内点検をしてもらっており、避難経路の確認をしている。 ・災害時用食料を備蓄している。	災害時用備蓄品として缶詰や毛布等を用意している。職員は消火器の位置や避難経路をしっかり把握している。しかし、避難訓練への近隣住民の参加はまだない。	地域の人に対し、災害時に支援してもらいたいことを具体的に言えるよう、その内容の検討を期待したい。また近隣住民が避難訓練への参加を、期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ミーティングで何度も話し合い、研修にも参加しており、スタッフ全員が一人ひとりの人格を尊重した声掛けや介護を心がけている。 ・面会ノート、重要書類はスタッフルームに保管している。	職員は利用者の言葉を否定せず、やさしく穏やかに接し、せかすような行動もない。トイレに一部の利用者の名前が書かれたパッド入れがある。面会ノートは利用者別になっているが、カード形式ではなく、だれが来たかがすぐにわかってしまう。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご利用者としてしっかり関わることで、言葉や表情などから思いを引き出し、自己決定できるよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご利用者ご本人のペースを大切にして、合わせた介護を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・洋服を選べるご利用者には一緒に選んだり、買い物に行ったりしている。 ・月1回の理美容で、毛染め、パーマ、顔剃りなどされている。 ・毎日着られている洋服も「よくお似合いです」とか「ステキな洋服ですネ」等常に声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・健康状態に合わせた食事内容にしたり、その人の食事形態に合わせたミキサー食、トロミ食にしている。また、ご利用者の食べたいおやつなどを聞いたり、時には出前や弁当を取るなど、変化をつけて楽しんでもらっている。 ・食事の下ごしらえ、御膳拭きなどもスタッフと一緒にしている。 ・食べられない時には、ご利用者の好まれそうなものを提供している。	食事は好評で、利用者は残さずすべて食べている。手が不自由で直接手づかみをしても、本人が食べやすい方法を優先し、職員は見守りにとどめている。おいしさだけでなく、栄養士が献立や食材を確認し、バランスのとれた安全な食事を提供している。月に1、2度の出前の日は、利用者の希望を聞き、寿司、ほかほか弁当、サンドイッチ等を取っている。一部の利用者が食器洗いやお盆拭きを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・嗜好や嚥下の能力に応じた食事を提供している。 ・栄養補助食品も適切に利用し、体調が悪い時も点滴をすることなく回復することができた。 ・水分は季節に応じて、冬は生姜湯、くず湯、甘酒、ココア等を提供している。 ・夜間眠られる前は、甘みの無いごぼう茶、ほうじ茶、ドクダミ茶等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・訪問歯科と契約しており、必要に応じて口腔内の状態を診察してもらっている。 ・食事後は、入れ歯洗浄、ブラシによる口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・ご利用者に合わせたタイミングを計り、さりげなく誘導しており、なるべく失敗のないよう配慮している。 ・紙パンツから布パンツへの利用変更もしている。 ・夜間、P-トイレを使用する方もいる。転倒の危険のある方には、夜間その方の居室の側で見守るよう配慮している。	利用者一人ひとりに合った誘導により、パットの使用量が減ったり、紙パンツから布パンツになる等、改善したケースが幾つもある。夜間も同様に、その人に合った排泄支援を行っている。トイレはとてきれいだである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、一番に牛乳を飲んでいただいたり、便秘の方には、歩行練習や運動をして、しっかりおなかを動かす工夫をしている。 ・果物、繊維質の多い食品などを心がけて提供している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・1日おきの入浴を基本としているが、その日の体調等を考慮するなど一人ひとりの希望にも沿っている。 ・その他、足浴や清拭も行っている。 	ローズや森林浴などの入浴剤を用意し、適宜、使っている。着替えや湿布貼りなど、入浴後の楽しみも含めて、職員は入浴をとらえている。また一番風呂が好きな人には、それが叶うよう、順番を決めている。浴室も更衣室もとても清潔である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・快適に過ごしていただけるよう温度管理を行っている。 ・ゆっくり休んでいただけるよう、状況に合わせて寝具(敷・掛毛布、電気毛布)を利用している。 ・入床前には、温かい飲み物を提供し、ゆっくり休んで頂けるようにしている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬の管理手順書に従い、ミスが起きないように細心の注意を図っている。薬が変わった時には、特に申し送りを厳重にして、体調の変化に留意している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の興味を引き出す工夫やボランティアの訪問により新しいことに挑戦していただいている。 ・コーヒーをたて、香りで起きていただいたり、パン生地をこねてもらい、焼き立てを味わっていただいている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の希望に応じて近所を一緒に散歩したり、ご家族やボランティアの協力を得て、初詣やお花見、菊花展、外食など季節ごとに出かけている。 ・ボランティアの方の協力を得ながら、車イス利用者の外出が実現しやすいのが事業所の強みです。 ・ご家族にもお願いして、外出、外食、買い物にも出かけてもらっている。 	天候が良ければ、毎日近隣を散歩する。高齢化や重度化で外出が困難になった利用者でも、家族やボランティア、民生委員と協力して、その力を借りることで、コーラスや琴を聞きに行ったり、散髪、外食などの機会を増やしている。バラ園などの遠出も協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日用品や洋服などスタッフと一緒に買い物に行ったり、おやつやデザートなど、好きなものを選んでもらって購入している。 ・ケアポート祭りの屋台で好きなものを食べたり、バザーで買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族やお友達からフリーダイヤルで電話をかけていただいたり、絵手紙などもご家族へ出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・いつもお花を飾り季節感をだしている。また、季節に応じた作品作りに取り組み、いつもホールには色々な作品を飾っている。 ・行事の写真も、いい思い出になっている。	手芸などの手作業が好きな利用者が多く、リビングの壁は、利用者と職員と一緒に作った、すばらしい出来栄の作品が飾られている。行事の写真の壁に貼り出して、話のきっかけづくりをしている。よく片付けられ、掃除が行き届き、きれいである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・皆さん自室にこもることなく、ホールにて手作業やレクリエーションをしたり、ソファでTVを観てくつろがれたりしている。 ・居室にて一人静かな時間を過ごす方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具やドレッサーを持ち込まれたり、希望によりテレビを設置されている。また、自分の作品を飾ったり、各人個性的なお部屋になっている。	几帳面な利用者も多く、きれいに整理整頓された居室が目立つ。自分で作品や写真等の飾りつけを行い、自ら居心地の良さを創り出している。また、各居室の担当職員は、エアコンの清掃等の管理をし、常に清潔で安全な居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・足元の悪い方は、シルバーカーを押して安全に移動していただいている。また、夜間のみ転倒のリスクの高い人には、P-トイレを使用し頂き、安全に安心して過ごして頂けるよう工夫している。		